

H25.6.5.(水)

# くらし

## 医療・健康

### おたふくかぜ 高度難聴併発の恐れ

一般におたふくかぜと言われる流行性耳下腺炎は季節に関係なく見られる。低い予防接種率が原因だ。成人してから感染するケースもあり重症化することもある。

流行性耳下腺炎は、ムンプスウイルスによる感染症。罹患者との接触や唾液などの飛沫によって感染する。

東京都立小児総合医療センター感染症科の堀越裕歩医師は次のように話す。

「幼児を中心に年によって100万人前後が感染している病

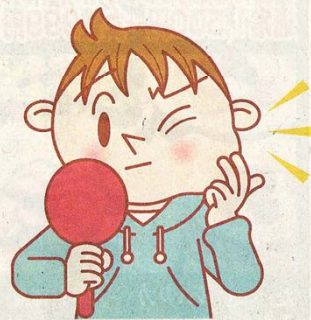
気です。感染後2〜3週間の

潜伏期を経て発症します。子どもの場合には唾液を作っている耳下腺の腫れと痛み、発熱が主症状で、千人に1人はほとんど音が聞こえなくなる高度難聴を伴います。また1割弱が無菌性髄膜炎を合併します」

高度難聴のほとんどは左右どちらか一方だが、確実な治療法がないので一生難聴と付き合わなくてはならなくなる。

「さらに中学生以上の児童や成人が感染すると、成人男性の

### ワクチン接種で予防を



場合は睾丸が腫れて痛む精巣炎、女性では卵巣炎を合併することがあります」

精巣炎や卵巣炎を併発しても不妊の原因になるのはまれだが、全く危険性がないわけではない。「子どもは感染しても比較的

症状が軽いので軽視しがちですが、大きな誤りです。高度難聴を併発していることを念頭に、まずワクチンを接種して予防を心掛けてください」

かつてムンプスワクチンの接種による無菌性髄膜炎が問題視されたため、ワクチンは現在、任意接種になっている。

「現在は副作用の少ない安全なワクチンが用いられています。幼児期にワクチン接種を受けないで、感染歴がないまま成人後に感染すると思いがけない結果を招きかねません」

日本小児科学会は、ワクチン接種を生後1歳以降に1回、小学校入学前にもう1回の計2回受けるよう勧めている。